KYOTAMBA TOWN

京丹波

議会だより

第95号
［令和８年11月17日］
発行 京都府京丹波町議会



令和８年
９月定例会

2P　令和７年度決算　ここに注目
数字から見る、京丹波町のいま
5P　条例の制定、改正、補正予算など
7P　一般質問に 12 議員
土砂・盛土対策による住民の安全確保を
19P　閉会中の委員会報告
21P　第 63 回追跡調査
22P　人（ひと）森田 作男さん（蒲生区）/編集後記/表紙の写真

表紙写真
伝統と革新
～心を合わせて挑め～
文七ロック

京丹波町

議会ホームページアクセス件数
1,056,639件（R8. 10. 23現在）前号より628件増

令和７年度決算

ここに注目

数字から見る、
京丹波町のいま



決算特別委員会委員長として



畠中　清司 議員

決算認定の本質は、前年度に町のお金が議決された予算どおり適正かつ効果的に使われ、その結果、町民のためにどのような成果があったのかを検証することであり、単に「予算を使ったか」「数字が合っているか」だけでなく、その事業は本当に必要だったのか、費用対効果は、今後も継続すべき事業なのかが重要である。町民のために適正かつ効果的に使われたのかを、公平・公正な議論によって検証し、その結果を今後の町政に生かすこと。そのために委員会を公平かつ円滑に運営することが役割である。



樋口　由実 議員

ふるさと応援寄附金 過去最高に

問　ふるさと応援寄附金は令和７年度、５億４０１７万５４００円と過去最高額となった。前年度から、どのような工夫や改善を行い、成果につながったのか。

答　寄附者のニーズや市場動向を分析し、米、野菜、卵など生活に身近な返礼品を拡充した。寄附件数は令和６年度は１万６８７５件から令和７年度は２万５１１６件へ48・８％増加した。１人当たりの寄附額は約２万１０００円で、リピーター率も増加傾向にある。



西山　芳明 議員

こども園のＩＣＴ化を一層促進し より有効活用を

問　業務のＩＣＴ化に取り組んだが、運用状況と成果及び課題は。

答　令和７年９月から保育ＩＣＴシステム「コドモン」の運用を開始し、園児の登降園の記録、欠席の連絡、お知らせの配信機能を活用している。結果、アプリ上でいつでも登降園状況を家族で共有でき、セキュリティ向上が図れた。また、早朝保育時間における保育士の電話対応がほぼなくなり業務の効率化が図れた。

保護者からは、こども園だよりなどの配信や手書きの連絡帳機能についても導入希望がある。



居谷　知範 議員

令和７年度の事業で町に遺せたものとは

問　合併20周年記念事業の実施により、遺せたものとは。

答　新たな船出をしていく意識統一ができた。また地域に根づき、息づいた文化や伝統芸能に触れることで、遺し、継承していく大切さを共有できた。

問　カーボンクレジット創出調査研究業務における事業成果は。

答　森林施業箇所のモニタリング報告書を作成し、認証機関の審査を受審する体制が整ったことから、認証申請を行いＪ－クレジットの発行に至った。



谷口　勝已 議員

すみやかに山林を調査し 所有者の確定へ

問　森林経営管理意向調査等業務委託料２５００万円の詳細は。

答　森林経営管理法により、不在地主となりつつある山林を境界画定明示調査し、所有者の意向を聞いた上で、経営を町に転換していく調査委託である。

問　松くい虫防除事業１８０万円の詳細は。

答　山野草の森にある天蓋山エリアで、以前より松枯れ防止に向けた長期的な取り組みを行っており、松の木94本に対しセンチュウを防除する樹幹注入を４８５本行っている。



山﨑　裕二 議員

収入に見合った支出を基本とする財政構造への転換を

問　2年連続で財政調整基金が前年度比マイナスとなっている。決算を振り返り、財政改善に向け、念頭に置いている点を共有すると。

答　人口減少、物価高騰、人件費や社会保障費の増加、公共施設の更新費用に加え、交付税依存など、財政の自由度は高くない。庁内横断的組織により、歳出全般を見直すとともに、企業版ふるさと納税強化や公共施設の使用料見直しなどを進め、将来の財政負担を見据えた持続可能な財政運営を図っていく。



伊藤　康二 議員

農業振興費4億5500万円の成果と課題を総括すると

問　農業振興に係る成果と課題を総括すると。

答　一連の継続的な支援の取り組みにより、農地の荒廃防止や農道・水路の維持、地域の共同活動の仕組みづくりなど、一定の成果を上げてきたと評価している。一方で、農業者の高齢化、担い手・後継者の不足、生産資材高騰、高温対策、不安定な米価など、新たな課題が顕在化し、山積している。その克服には地域計画による農地集積・集約化の促進、国・府との緊密な連携が肝要と考えている。



奥田　健次 議員

予算と決算の差を次の積算に生かす

問　ふるさと応援寄附金事業で当初予算と決算に約6000万円の差がある。その差が生じた原因と、今回をもとに、今後の予算や積算の仕方は。

答　ふるさと応援寄附金事業の予算と決算額との残額、当初想定額に対し、寄附額が減少した。予算の規模に届かない分、返礼品が予定金額より減少し、送料などの経費削減効果もあった。予算の段階で精密にする。今回の決算の結果もふまえ、次年度以降、検討する。



大澤　順可 議員

畑川ダム基本計画策定業務委託料と児童虐待防止対策

問　畑川ダム基本計画策定業務委託料551万1000円の進捗状況は。

答　協議会とすり合わせ、周辺整備が整うように進めていきたい。

問　児童虐待防止対策等総合支援事業費国庫補助金が令和6年度28万6000円に対し、令和7年度は619万円と約21倍に増額となっている理由は。

答　こども家庭センターでの児童虐待などの児童相談について、以前はエクセルやワードで記入していたが、国庫補助金を活用して児童相談システムを導入したため。



東　まさ子 議員

よりよい第10期介護保険事業計画の策定を

問　保険給付費約19億3400万円と地域支援事業費約5536万円が、65歳以上の第9期介護保険料を算定する時の根拠である。計画と比べ、6年度決算は1000万円、7年度決算は5800万円少ない。8年度以降の推移は。

答　介護保険料は3年の期間を定め算定する。3カ年という将来期間の推計でもあり、若干の差は出る。給付費減少には、高齢化率は上昇しているものの、高齢者数がすでにピークアウトを迎えていることが背景にあると認識している。



松村　英樹 議員

がん患者アピアランス支援と整備支援事業の効果は

問　がん患者アピアランス支援事業の令和7年度予算は4万8000円であり、同決算は9万円である。申請件数と評価は。

答　申請件数は3件（ウィッグ）である。申請された全ての方に補助できており、令和8年度も継続していく。

問　「食の京都TABLE」整備支援事業の効果は。

答　道の駅「京丹波味夢の里」の出荷者エリアの陳列棚や商品のライトアップ照明の新設をした。京丹波のブランドとしてブランディングし、さらなる集客につなげていく。

決算認定の討論

一般会計

反対討論 東　まさ子 議員

デジタル通貨は来年2月で終了との報告があった。検証を十分すべきである。住民の福祉の増進にこそ全力を。

賛成討論 樋口　由実 議員

ふるさと応援寄附金が過去最高額となり、稼げる自治体として自主財源の確保につなげた成果を評価する。

賛成討論 伊藤　康二 議員

町の農業環境は高齢化、担い手不足など、厳しい状況にあるが、必要な農業振興施策が実施されたと評価し、賛成。

国民健康保険事業

反対討論 東　まさ子 議員

4人世帯の場合、同じ年収のサラリーマンの2倍の保険料になる試算である。国庫負担の増額を国に求めるべき。

賛成討論 大澤　順可 議員

厳しい情勢の下、実質的な黒字を確保したことは高く評価できる。今後の健康維持促進を期待し賛成。

後期高齢者医療

反対討論 東　まさ子 議員

高齢者のいのち、健康を守るため、保険料の引き下げを広域連合へ、窓口負担2割の撤回を国に求めるべき。

賛成討論 松村　英樹 議員

保険料の徴収、広域連合への納付など、制度の適正な執行を評価し、相談体制の充実を期待する。

介護保険事業

反対討論 東　まさ子 議員

所得基準を大幅に下げるほか、預貯金も負担割合決定の要件にする利用料2割負担の対象拡大は撤回を。

水道事業

反対討論 東　まさ子 議員

使用水量5トン以下が33・58％。府内で2番目に高い水道基本料金。5トンのランクを設けるべき。

賛成討論 居谷　知範 議員

安定した給水を維持するため、必要な施設の維持管理や管路更新など、適切な事業運営が行われたことを評価する。

決算監査報告（要旨）

令和7年度末の地方債残高は226億7,629万8千円で、前年度末より9億529万6千円減少し、起債抑制の効果が表れている。一方、今後は金利上昇も見込まれることから、新たな起債を抑制するとともに、実質公債費比率の増加を抑えるため、引き続き健全化対策に取り組む必要がある。

基金残高は前年度末より3億9,038万4千円減少し、49億3,512万9千円となった。今後も大規模災害など予期せぬ支出に備え、基金の適切な確保と、地方債の計画的な繰上償還など、将来を見据えた財政運営が求められる。

また、物価高や原油価格高騰等による財政への影響をふまえ、事務事業の見直しや効率化、事業効果の検証など、歳出削減に向けた取り組みを進める必要がある。町施設についても、維持管理コストを分析し、利用者負担の適正化や使用料等の見直しを検討されたい。

自主財源の確保では、ふるさと応援寄附金が増加していることから、戦略的な事業への充当と活用状況の積極的な発信により、さらなる寄附金の確保につなげることを期待する。さらに、滞納対策については関係機関と連携し、特に新規滞納者への早期対応と、過年度滞納者への適切な時効管理等により、収納率の向上を図られたい。補助金についても運営状況や繰越金等を精査し、適正な交付に努めるとともに、各事業の効率化、職員の意見や提案を生かし、健全で効率的な組織運営に努めていただくことをお願いし、監査意見とする。



監査委員　山本　透

山﨑　眞宏（議会選出）

将来の償還負担を軽減するため減債基金積立金などを追加した補正予算を可決

主な補正（一般会計）	
減債基金積立金	8,290万円
家庭用防犯カメラ普及支援事業	150万円
デマンド交通推進事業	58万円
山村開発センター管理事業（ベビーケアルーム設置）	381万円



令和8年度補正予算

一般会計ほか3会計の補正予算を可決しました。

主な質疑・討論

一般会計

減債基金積立事業、家庭用防犯カメラ普及支援事業、デマンド交通推進事業、山村開発センター管理事業など1億2060万円を追加するもの。（全員賛成）

問 **地方創生臨時交付金の事業用途は。**

課長 公共施設電気料金高騰分に活用する。あわせて家庭用防犯カメラの設置事業補助金や路線バス運行支援金に充当する。



ベビーケアルームのイメージ

賛成討論　居谷　知範　議員

家庭用防犯カメラ設置事業補助金の復活や、デマンドタクシーの丹波地区での運行の拡充を高く評価する。

特別・企業会計補正予算

3つの会計の補正予算を可決しました。

国民健康保険事業（第1号）2244万円

前年度事業の精査による国・府支出金等返還金。（全員賛成）

介護保険事業（第1号）（事業勘定）5145万円

前年度介護給付費負担金等の確定による返還金、生活支援体制整備事業の増額等。（全員賛成）

高原財産区特別会計（第1号）401万円

高原財産区解散に伴う手続きのための補正。（全員賛成）

主な条例の制定・改正

●特別会計条例及び財産区管理会条例の一部改正

高原財産区解散に伴い、関係条例の所要の改正及び廃止を行うもの。（全員賛成）

●印鑑条例の一部改正

出入国管理及び難民認定法等の一部を改正する法律及び電気通信事業法及び日本電信電話株式会社等に関する法律の一部を改正する法律の施行に伴い、所要の改正を行うもの。（全員賛成）

●認可地縁団体印鑑条例の一部改正

地方自治法施行規則の一部を改正する省令の施行に伴い、所要の改正を行うもの。（全員賛成）

●グリーンランドみずほの設置及び管理に関する条例の一部改正

当施設の安定した運営を図るため、特用林産物等流通販売施設（さらびき館）の利用日の変更及び各施設の利用料金の見直しを行うもの。（賛成9　反対3）

問 **運動施設は収益性より公益性を最優先すべき施設であるが、今回の条例改正は設置目的に沿った内容と言えるのか。**

室長

町民が利用しやすい施設であることが最も重要であるが、一方で条例では、設置目的に応じて最も効率的な運用をするよう努めなければならないと定めている。



グリーンランドみずほ

問 **早急かつ急激な値上げは混乱や不満、利用者の減少を招く。対応は。**

室長

直ちに現行の利用料金を改正後の上限料金まで引き上げるものではない。特に町内料金は現行料金を据え置き、今後、利用料金を改定する場合には、町民や利用団体への十分な周知期間を確保して進めていきたい。

反対討論 東　まさ子 議員

町民の健康の増進や町が目指す観光人口の取り組みに逆行する。条例を無視して休日を変更していたのは問題。

●家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部改正

児童福祉法等の一部を改正する法律の一部の施行及び児童福祉施設の設備及び運営に関する基準等の一部を改正する内閣府令等の施行に伴い、所要の改正を行うもの。

〔全員賛成〕

●特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の一部改正

児童福祉法等の一部を改正する法律の一部の施行に伴い、所要の改正を行うもの。

〔全員賛成〕

●老人医療費の支給に関する条例の一部改正

医療法等の一部改正に伴い、所要の改正を行うもの。

〔全員賛成〕

問 **医療情報基盤・診療報酬審査支払機構の担う役割は。**

課長

診療報酬の審査支払業務に加え、医療ＤＸを推進するための基盤を整備し運用する。

●消防団員等公務災害補償条例の一部改正

非常勤消防団員等に係る損害補償の基準を定める政令の一部改正に伴い、所要の改正を行うもの。

〔全員賛成〕

問 **葬祭補償以外の公務災害について過去に支給された事例は。**

課長

訓練中や災害対応中のけがの治療に対する補償である療養補償は、毎年一定程度行っている。

●高原財産区財産の無償譲渡

高原財産区の解散に伴い、その財産を町へ無償譲渡するもの。

〔全員賛成〕

●太陽光発電施設の適正な設置及び管理に関する条例の一部改正

系統用蓄電池の適正な設置及び管理について定めるため、所要の改正を行うもの。

〔全員賛成〕

問 **系統用蓄電池を囲む柵や塀、敷地境界、建物、道路との離隔距離、標識の適正な設置に関する義務など、この条例及び施行規則の改正により対応可能になっていくのか。**

課長

国の危険物の規制に関する規則や、電気設備に関する技術基準を定める省令などで対応可能と考えている。

賛成討論 大澤　順可 議員

系統用蓄電池を新たに特定事業と定義し、立地選定から撤去までの管理体制を明確にするものである。

賛成討論 西山　芳明 議員

系統用蓄電池設置に関し、本条例に沿った適正な設置及び管理が求められるとともに、行政指導にも期待する。

人事（敬称略）

人権擁護委員候補者

谷口　誠（再任）

的場　晴美（新任）

各議員の賛否

令和8年9月定例会

賛否の分かれた議案のみの表示です。ほかの議案については、全会一致で賛成しました。
議長は採決には加わらない。○は賛成、×は反対

審議結果	議案名など ＼ 議員名	樋口　由実	居谷　知範	西山　芳明	谷口　勝巳	山﨑　眞宏	山﨑　裕二	奥田　健次	東　まさ子	伊藤　康二	畠中　清司	大澤　順可	松村　英樹
可	グリーンランドみずほの設置及び管理に関する条例の一部改正	○	○	○	○	×	×	○	×	○	○	○	○
可	令和７年度一般会計歳入歳出決算	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○
可	令和７年度国民健康保険事業特別会計歳入歳出決算	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○
可	令和７年度後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○
可	令和７年度介護保険事業特別会計歳入歳出決算	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○
可	令和７年度水道事業会計利益の処分及び決算	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○

ここが聞きたい！

一般質問



大澤（おおさわ）　順可（じゅんか）
議員

問 土砂・盛土対策による住民の安全確保を

答 府と連携し不安解消に向け情報提供していく

問 **規制区域指定以降、大規模な盛土や土砂の堆積状況をどのように把握、調査しているのか。**

課長 盛土規制法の規制区域指定以前から継続して土砂の埋め立て個所も追跡し、状況を確認しながら関連部署と情報の共有に努めている。

問 **住民から危険な盛土があるといった相談があった場合、町はどのような体制で現地確認や初期対応を行っているのか。**

課長 町職員で盛土行為を確認し、府と情報を共有した後、現地調査に同行し、共同で調査、指導に努めている。

問 **工事の目的・実施主体・撤去完了の時期を住民に説明しないまま盛土の設置・放置が進むことは不安を増幅させる。事業者に対し、近隣住民への誠実な説明と情報提供を要請する考えは。**

町長 府と連携し、該当事業者に粘り強く、また厳しく指導・要請を継続し、誠実な説明と情報提供を求めていきたい。

空き家の現状と対策を

問 **空き家にしないための施策の現状と重要性についての認識は。**

課長 予防施策として空き家バンクの活用があり、放置状態の空き家は防犯・安全・環境など問題が生じるため、空き家にさせない働きかけは極めて重要である。

問 **他の自治体で普及が進んでいる、住まいのエンディングノートへの認識は。**

課長 元気なうちに財産や住まい、今後の生活に関する希望を整理し、家族や支援者と共有するための有効な手段と認識している。

問 **固定資産税の納付通知書に、住まいの意向や管理状態をセルフチェックできるチラシや簡易シートを同封し、啓発を行う考えは。**

町長 住まいの将来を考える契機になり、意義のある手法の一つと考える。空き家など発生予防について、関係部署と調査研究していきたい。

手帳導入によるペット防災を

問 **ペット同行避難の受け入れスペースの確保状況と課題、ペット用の備蓄品と今後の計画は。**

課長 原則として居住スペースへの同伴避難は禁止であり、猛暑、極寒対策は今後の課題である。京丹波町住民避難マニュアル更新時に、飼い主に対しペットに必要な備蓄品の情報を充実していきたい。

問 **防災情報ページや緊急時の預け先を追加した町独自の愛犬・愛猫記録手帳の導入を。**

課長 京都府獣医師会や南丹地域動物愛護推進協議会と情報共有し、調査・研究を進めたい。



配布されている愛犬手帳

ここが聞きたい

一般質問



樋口（ひぐち）　由実（ゆみ）
議員

問 介護用品助成の申請手続きの簡素化を
答 申請者の負担に配慮し改善点を検討する

問 介護用品購入費助成制度の申請方法と支給までの流れは。

課長 町内店舗で対象介護用品を購入後、領収書を添えて申請。内容確認後、翌月に交付決定通知を送付し、指定口座へ助成金を振り込む。

問 介護を担う家族の負担軽減のため、申請方法などを見直し、手続きを簡素化できないか。

課長 領収書の保管や申請書の記入、購入費の一時負担などがあると認識している。適正な制度運営を図りながら、申請者の負担に配慮し、改善できる点を検討する。

問 綾部市のチケット方式など、他自治体の取り組みも参考に、利用者の負担を軽減し、より簡単に利用できる仕組みを検討しては。

部長 チケット方式には、購入店舗の限定や発行・管理経費などの課題もある。他自治体の取り組みも参考に、利用者の利便性向上と負担軽減につながる仕組みを検討していく。

町営住宅の利活用と駐車場のあり方は

問 蒲生野団地の立地を生かし、若い世代や子育て世代、高齢者など世代を超えた活用を検討しては。

町長 国でも公的賃貸住宅の入居要件の弾力化や他目的への転用など、柔軟な活用が進められている。必要な手続きや他自治体の事例などを調査し、本町に即した活用のあり方を慎重に考えていく。

問 町営住宅では1戸1台の駐車スペースを基本としているが、複数台所有する世帯も多い。現在の生活実態に応じた駐車スペースの確保を検討すべきでは。

部長 1世帯で複数台所有する生活実態との乖離（かいり）は、課題と認識している。駐車スペースの確保は喫緊の課題として受け止め、課題解決に努めていく。

町政懇談会の検証を

問 旧町単位での開催は、身近な地域課題を発言しにくい面もある。町民が意見を出しやすく、地域の声を十分に拾える場となっていたのか。

部長 アンケートでは、会場規模が大きくなり、意見を出しにくくなったとの声もあった。今後、寄せられた意見をもとに検証を行い、次年度以降の開催方法を検討する。

問 国道27号の歩道は、草が繁茂して歩きにくい。住民からの通報があった場合、どのように対応しているのか。

課長 町職員が現場を確認した上で、関係機関へ連絡し、現場対応を求めている。



和知地区　国道 27 号歩道

ここが聞きたい

一般質問



畠中（はたけなか）　清司（せいじ）
議員

問 端末活用状況の評価は
答 学びのツールとして確実に定着

問 **GIGAスクール構想第1期の端末活用状況の評価は。また、活用内容の検証は。**

教育長 必須の学びのツールとして定着した。ICT推進戦略会議を開催し、活用事例や課題を共有し、学習効果の検証、教職員の校務改善のあり方について取り組んでいる。

問 **児童生徒の学力向上や学習意欲向上にどのような成果があったのか。また、成果をどのように評価しているのか。**

教育長 基礎学力の向上とともに自己肯定感、学びの意欲などの非認知能力の高まりが確認された。特に課題解決のための学力と学びの意欲向上につながっている。

問 **第2期に向けどのような改善を図り、教育環境の実現を目指すのか。**

教育長 地域課題をテーマとした探究的な学びを積極的に推進したい。また、一人ひとりに最適化された学び、オンライン共同学習や情報活用能力の充実、生成AI活用に向けた調査研究を進めていく。



第2期で使用中のタブレット端末

七大山城の整備の現状と今後の計画は

問 **森の京都DMOや観光協会など、広域な団体との連携による観光振興は。**

町長 来訪者の受け入れ環境の整備状況を確認し、観光ガイドブックへの掲載や周遊ルートの作成、PR方法など検討していく。

問 **今後、町の歴史文化資源として、どのようなビジョンのもと取り組んでいくのか。**

室長 交流人口の獲得や地域振興につながることが期待できる。今後、周遊ルートの作成やPRについて検討する。

教育長 町民のみなさんや小中学生に本町の歴史、文化、自然を伝える文化財としての役割を期待している。

危険個所の点検状況は

問 **土砂災害警戒区域や浸水想定区域など、危険個所の点検状況は。また、危険個所の情報は住民に対しどのように周知されているのか。**

課長 防災パトロールを実施し、危険個所を点検している。情報は、ハザードマップの全戸配布と、あんしんアプリおよびホームページで公開し、土砂災害警戒区域指定時の説明会などで周知している。

狩猟者の育成を

問 **有害鳥獣駆除対策の担い手確保に向けた取り組みは。また、狩猟者育成、狩猟免許取得助成制度の利用状況は。**

課長 狩猟免許取得支援金を交付している。制度利用者数は令和3年から5年間で11人である。狩猟マイスター制度により初級者の技能向上に取り組んでいる。

ここが聞きたい 一般質問



伊藤（いとう）　康二（やすじ）
議員

問 京丹波産ブランド米の栽培・販売戦略を
答 安全で高品質な特別栽培米の価値を高める

問 **高温耐性品種への転換、新品種導入の考えは。**

課長 収量や食味などのデータ収集・分析を行い、動向を注視していく。

問 **町のブランド米として、今後、重点的に推進する栽培品種は。**

課長 コシヒカリ、キヌヒカリを基本としつつ、今後、高温耐性品種も重点推進品種の一つに位置づけることも検討する。

問 **農地集積の考え方は。**

部長 各種支援制度を通じ、意欲ある農業者や集落営農組織への農地集積、集約化を推進していく。

問 **スマート農業の導入を。**

部長 中山間地域の農業環境に適したスマート農業機械の導入支援により、担い手の負担軽減と経営体力強化を進める。

問 **町ブランド米の構想を。**

町長 安全で高品質な特別栽培米の価値を高め、生産者が意欲的に営農を継続できるような強いブランド米を確立したい。



高温耐性品種　ゆうだい21（右）

地域公共交通の維持・確保を

問 **町営・民間バス、カーシェアリングやデマンドタクシーなどを個別に考えるのではなく、全体をひとつの交通ネットワークとした再構築を。**

課長 各交通機関の長所や特徴を生かした移動システムの構築が重要である。町内の公共交通のあり方を見直し、地域全体を見渡した面的な公共交通ネットワークの再構築を目指していく。

問 **地域公共交通の確保に向けた協議を。**

部長 住民や交通事業者、行政などの関係者が協働し、地域公共交通を支え、維持することを目指した取り組みを進める。

単身高齢者の支援を

問 **単身高齢者が抱える課題への認識は。**

課長 それぞれ必要とされる支援が異なることから、情報共有するなかで、連携した重層的な支援が必要と考えている。

問 **避難支援体制の現状と今後の取り組みは。**

部長 町防災連絡協議会と情報共有し、支援者と避難支援を行う体制を構築している。引き続き、計画作成・更新を進めるとともに、災害に強いまちづくりに取り組む。

スマートシュリンクへのかじ取りを

問 **スマートシュリンクの認識は。**

町長 規模の縮小と生活の質、地域の持続可能性の両立が大切と考えている。

問 **各種インフラの再配置、統廃合の検討を。**

町長 変化するニーズへの対応、必要な行政サービス維持を図りつつ、施設の集約化・複合化など、適正配置を目指していく。

ここが聞きたい

一般質問



居谷（いたに）　知範（とものり）
議員

問 学校作業療法士を配置し効果の検証を
答 先進事例を深く研究し関係機関と連携したい

問 学童期における発達支援の重要性は。

教育長

基礎的な学習能力の形成とともに自己肯定感、社会性、対人関係能力などが発達していくことから、個々の発達特性や課題に応じた支援を適切に行うことが、今後の成長のため極めて重要と考えている。

問 本町には2人の作業療法士が在籍しているが、業務内容と期待される役割は。

課長

発達支援事業をはじめ、子どもの特性に合わせた育ちの支援と子育ての支援を進めている。子どもの健やかな成長発達、保護者の充実した子育てにつながることが期待される。

問 多様な特性を持つ児童生徒への支援を充実させるため、作業療法士を学校に常駐させることは有効と考える。モデル校を選定し、作業療法士を配置して年間を通じた支援を行い、その効果を検証しては。

教育長

先進事例について深く研究をするとともに、関係機関ともしっかり連携したい。

和知小中一貫校ならではの教育環境の充実を

問 和知小中一貫校の目指す学校像（教育理念）は。

教育長

地域と連携した伝統文化、自然を生かした体験的な教育を推進し、児童生徒の郷土への愛着と誇りを育むことを目指している。

問 今後、離れた校舎や町内各小中学校への移動が頻繁になることが想定される。移動手段として、同校へスクールバスとドライバーの配置を検討すべきでは。

教育長

児童生徒の安全で効率的な移動の確保は必須の課題と認識している。専用スクールバスの活用も含め具体的な検討を現在進めている。



和知小学校

SDGs未来都市選定をきっかけとしたまちづくりを

問 今年度、SDGs未来都市に本町が選定された理由と評価は。

町長

これまでの取り組みや地域特性を生かした提案が、高い評価を得たものと受け止めている。

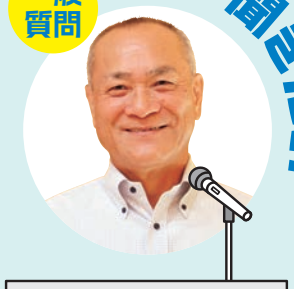
問 今回の選定を一過性のものにせず、本町の豊かな地域資源と町内外の人材を結び付け、地域経済、地域コミュニティ、環境の好循環を生み出すため「持続可能な京丹波町」の具体的な将来像と、その実現に向けた今後の取り組みは。

町長

地域資源を守りつつ、地域内で資源、経済、人材が循環する社会を目指していきたい。環境というキーワードでタウンプロモーション効果を高め、多様な主体と連携の機会を創出していく。

ここが聞きたい

一般質問



西山（にしやま）　芳明（よしあき）
議員

問 山の名をブランドに活用しては
答 フレッシュで斬新な提案である

問 農林畜産物などを対象に、町内にある代表的な山の名を冠した独自のブランド戦略を進めては。

町長 非常にフレッシュで斬新な提案である。京丹波自体が大きなブランドでもあるが、町内には個性的な名前の山があり、これを生かしつつ全体的に整合性をもった名称なども考える必要がある。



魅力的な名を冠した「美女山」

問 最近、話題作となっている映画のロケが本町でも行われ、さらに、本町出身の漫画家が地元を題材にした作品も注目を集めている。こうした関係者との結びつきを深め、町の振興に協力を要請しては。

町長 これまで少し手薄であった、芸術関係、映画関係者ともつながりを深めていかなければいけない。

歴史財産を将来の町づくりに

問 文化財保護委員会の直近の開催状況と内容は。

課長 本年6月に開催し、委員の文化財視察や資料整理が必要などの意見が出た。

問 歴史遺産を将来に引き継ぐための補助、修復、後継者育成について取り組んでいる活動は。

教育長 国、府、町の補助金を活用し保全に努めるとともに、伝統芸能などの継承のため、学校教育にも位置付けている。

問 今年度も地域学芸員講座が開講され、受講者は町内各地域の歴史や自然、文化遺産などに相当造詣を深めており、今後受講生が町の案内役として活躍できるステージを設けては。

教育長 受講生の中から案内役、語り部が育っていくことを期待しているが、これからの課題である。

問 町ホームページの歴史・文化財の紹介ページのリニューアルと、各史跡などの案内看板の整備も必要では。

教育長 文化財保護委員会でも議論になっており、ホームページのリニューアルは必須である。看板は、統一した整備を検討する。

学校給食の現況と課題は

問 学校給食のクオリティーが高評価されている要因は。

教育長 新鮮で質の高い地元食材がふんだんに使われているところにある。また地元農家、企業との継続した連携が高評価の要因と考える。

問 給食センターの経年劣化が進む中、3カ所あるセンターの将来的なビジョンは。

教育長 丹波、和知は25年、瑞穂は14年が経過しており、集約することも含め検討する段階に入りつつあると認識している。

ここが聞きたい

一般質問



松村（まつむら）　英樹（ひでき）
議員

問 消防団員の熱中症対策を
答 予防対策・対応マニュアルの作成を検討する

問 近年の気温上昇に伴い、消防団活動における熱中症の発生リスクが深刻化し、団員の安全管理が重要な課題である。熱中症予防対策・対応マニュアルを作成する考えは。

課長 他市町村の事例を参考に検討していく。



ヘルメットファン

問 活動充実の一環として、啓発活動や訓練時に限定し、送風機能のあるヘルメットファンを導入する考えは。

課長 消防団と協議を行い、検討していく。

多文化共生社会を

問 在住されている外国人の方が手続きする際、役場の相談窓口での言語翻訳は、何カ国語に対応しているのか。

課長 多言語通訳サービスは、33言語に対応している。

問 ゴミ出しや日常生活について、どのように情報発信しているのか。

課長 船井郡衛生管理組合が、やさしい日本語版と5カ国語版の冊子を作成している。本町では、あんしんアプリを通じ発信している。

問 行政手続きや日常生活に役立つ情報をまとめた、暮らしの便利帳を多言語に対応できるようQRコードの活用を。

課長 次期発行する際に、研究していく。

防災力の強化を

問 全国どこでも災害が発生する状況で、防災力の強化が急務であり、避難所の環境改善が必要である。災害備蓄品の見直しや、災害用コミニケーションボードを作成する考えは。

課長 本年度から、災害備蓄物資として、トイレットペーパーを確保する。災害用コミニケーションボードは、今後、検討していく。

問 災害が発生した際、健康被害の防止と衛生的な避難生活を維持するため、トイレ対策が重要な課題である。災害関連死のリスクを減らし、誰もが安心して快適に避難生活を送れる環境整備を行うため、国の交付金などを活用し、自走式トイレカーを導入する考えは。

町長 現時点では維持管理など総合的に判断し、導入は考えていない。

町道の道路損傷通報システムの導入を

問 住民の方が、道路の陥没や損傷などを発見された場合、スマホから通報できる町道の道路損傷通報システムを導入する考えは。

課長 国土交通省が導入している道路緊急ダイヤル#9910を活用しているため、導入は考えていない。

ここが聞きたい 一般質問



山崎（やまさき） 裕二（ゆうじ）
議員

問 投票率向上を目指した環境整備を
答 さまざまな手段の検討を行っていく

問 **投票率が低い水準にある投票区の地域特性は。**

選挙管理委員長 高齢化率が低く、比較的若い世代、現役世代が多いという地域特性がある。

問 **投票率が低位にあった投票区の傾向は。**

選挙管理委員長 特定の傾向は見いだせず、複数の要因が相互に作用し、低位になったと考えている。

問 **移動期日前投票所の巡回開設ほか、投票率向上を目指した環境整備を。**

選挙管理委員長 移動期日前投票所を含め、他市町村の事例などを参考に、さまざまな手段の検討を行っていく。

問 **特定地域づくり事業協同組合の町での設立・運営を**

問 **同組合制度の概要は。**

室長 人口の急減に直面している地域において、季節ごとの仕事を組み合わせ、年間を通じた仕事を創出し、雇用した職員を組合員へ派遣する制度である。

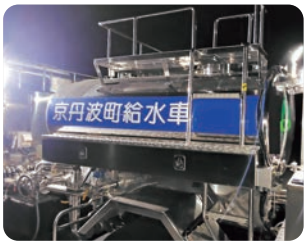
問 **複数事業従事の労働者派遣など特定地域づくり事業を行う同組合の町での設立・運営を。**

町長 十分に調査・研究し、慎重に判断していく。

問 **給水車運転に必要な免許の取得支援を**

問 **断水時などに応急出動する給水車の運転に必要な準中型免許の取得支援を。**

課長 現時点で取得費用の助成は考えていない。



上下水道課配備の加圧式給水車

問 **カーボンクレジット創出を通じた町成長戦略の展開を**

問 **カーボンクレジットを触媒とした地域社会全体の成長戦略の展開を。**

町長 カーボンクレジットをストーリーとし、一緒にまちづくりを行ってもらうパートナーと関係性を構築していくことが、複層的な町の価値向上につながると思っている。地域社会全体で価値を創造していく体制を整えていきたい。

問 **須知高校生 通学支援の拡充を**

問 **民間路線バス通学定期券も早急に助成対象とし、地域活力の増進に、須知高校の存在が絶対的に必要との町としての姿勢を鮮明に打ち出していくべきでは。**

室長 引き続き、府と協議を行うなかで検討を進める。

問 **関係人口 関連施策のさらなる質的深化を**

問 **ふるさと住民登録制度開始に向け、CLUB京丹波（京丹波ファンクラブ）と地域SDGs活動プラットフォームの2つの基盤の統合を。**

町長 構築してきた2つの基盤・仕組みを統合する方向で整理を進め、ふるさと住民登録制度の開始に備えていきたい。

ここが聞きたい

一般質問



谷口（たにぐち）　勝巳（かつみ）
議員

問 水田政策見直しへの対応は
答 地域農業の維持発展へつなげる

問 農水省は、食料・農業・農村基本計画の下、農業者が急減する中で、地域計画の実現に向け、担い手が生産向上を伴いながら、より多くの離農農地の引き受けを進めていけるよう、農地の集約化への支援制度について、既存制度を見直して強化し、水田政策を令和9年度から根本的に見直すとしているが、本町の考えは。

町長 農業を産業の主体とする本町にとり、今回の水田政策を根本的に見直す政策の変更は、大きな関心を持たざるを得ないところであり、新たな水田政策により、さらに地域農業の維持発展へつなげていくことが求められている。

問 令和7年度の農業人口、および新規就農者、認定農業者、集落営農組織数は。

課長 営農計画書のデータから農業人口は1908人、新規就農数は13人、認定農業者数は57人、集落営農組織数は44団体となっている。

問 高齢化が進み、新規就農も思うように増加が見込めず、5年先の展望が見込めない今、政府の水田政策の見直しに対応できる本町の体制を整え、担い手の育成や確保を図ることが喫緊の課題と思われるが所見は。

課長 今後、将来に向けた担い手を育成していくために、地域計画の策定を依頼し、目標地図の作成も完成した。そこに示す将来の担い手に重点投資をし、担い手を確保していくことが重要であり、関係人口も含め多様な方法で取り組む必要があると認識している。

問 緑肥作物の作付け状況は

緑肥作物（ヘアリーベッチ）の作付けにより、高騰する化学肥料の低減と環境にやさしい特別栽培米などの取り組みをさらに推奨するべきと考えるが、今年度の取り組み状況と来年度の計画は。

課長 環境保全型農業直接支払交付金制度に取り組む面積は、今年度1360アールとなっており、来年度は1350アールと見込んでいる。

問 道の駅「和」混雑緩和の対策は

都市緑化フェアの開催を控え、拠点会場であるわち山野草の森は、多くの来場者が想定される。道の駅「和」との交通対策や、催事関係の綿密な連携はできているのか。

部長 和知ふるさと振興センターと委託契約を締結し、施設相互が盛り上がるよう会場管理者と調整を図る。



道の駅「和」第二駐車場

ここが聞きたい

一般質問



東（ひがし）　まさ子（こ）
議員

問 コメの生産コスト補償の要望を
答 交付金などを最大限活用し支援策を模索する

問 農業資材の高騰に加え、今年のJA概算金は昨年から4割減となっている。政府は認定した玄米60kg当たり2万5350円の生産コストを、最低限補償することが求められる。国に強く要望すべきである。また、町独自の支援策も必要では。



産業の主体であるお米

町長 米価の動向と合わせ生産資材も高騰しており、国においてさらなる対策が求められる。国・府の各種交付金の動向を見守り、支援策を模索したい。

介護保険2割負担解消を

問 国は、介護保険の利用料2割負担の対象拡大を今年度中に決めるとしている。サービス利用に困難をもたらす対象拡大はやめるよう国に求めるべきでは。

町長 今後の動向を見守りたい。

問 中山間・人口減少地域を対象に、介護サービスの人員基準の緩和や、保険給付から外す特定地域導入の制度改正がされた。介護の質や職員の負担など、影響は。

町長 町内の事業所と情報共有を図り、本町の実情に応じたサービスの確保に努める。

問 導入の意向が府から示された場合、特定地域の指定を許さず、サービスの維持、継続を伝えるとともに、事業所の経営支援も必要では。

部長 資料が届いていない。今後見極め判断したい。

問 第10期介護保険計画策定にあたり、基金は保険料の抑制に活用すべきでは。

課長 保険料への影響が少なくなるよう、介護保険給付費準備基金の活用も含めて、地域包括ケア推進委員会において協議していきたい。

住み慣れた地域にグループホームを

問 障害者向けグループホーム設立に対する課題は。

部長 専従の職員を配置し、調査・研究している。物件確保よりも、人材確保や安定的な経営基盤の確立などが課題となる。

給食費無償化の拡充を

問 中学校給食の無償化を国に強く求めるべきでは。

教育長 早急に実施されるよう要望している。

商業施設と図書館は両立できるのか

問 住民参加で考えるのが基本では。

副町長 意見を聞くことは必要であるが、昨年の調査結果を基に引き続き、役場内で慎重に調査・検討したい。

ここが聞きたい

一般質問



奥田（おくだ）　健次（けんじ）
議員

問 地域主体の移動支援をどう支えるのか

答 立ち上げ費用と車両経費などを補助する

問 **公共交通のみで対応しにくい地域内の移動ニーズをどのように把握し補完するのか。**

課長 住民アンケートでは、帰りのバスがない、便数が少ない、バス停が遠いとの声があった。交通空白の時間帯などは、デマンドタクシーや地域主体の移動手段で補完する。

問 **コミュニティ・カーシェアリングをどう位置づけ、支えるのか。**

課長 地域公共交通計画でも地域交通の一部と捉えている。活動は現在竹野地区の一団体である。立ち上げ費用に加え、車両賃借料、保険料、燃料費などの二分の一を補助する。安全管理は地域で担う。

中央公民館の安全と機能は

問 **耐震診断の実施状況と安全性は。**

課長 耐震診断は実施していない。長寿命化計画の策定時にコンクリートのコア抜き検査を実施し状態を調べた。耐震基準の判断強度基準を上回っており、一定の強度は保たれている。必要な修繕などを実施し建物の耐久性保持を図る。

問 **中央公民館のあり方の検討状況は。**

教育長 今後の庁内プロジェクトチームの調査検討状況を社会教育委員会議に報告し、中央公民館のあり方の検討を進めたい。



中央公民館と町営バス停

問 **必要な機能を整理し、既存の施設や新たな拠点など、どこで担うか検討が必要では。**

教育長 社会教育施設を考える上で、どのような機能が必要になるのかをふまえて議論する。

部活動の地域展開は

問 **地域展開をどう進めているのか。**

教育長 来年4月のホッケー部の地域クラブ移行を目指し、学校と町ホッケー協会との間で協議中である。教員が地域クラブで指導する場合に備え、兼業兼職を可能とする要綱の整備を行った。

問 **地域移行制度決定前から、将来像を話し合う継続的な協議の場は設けているのか。**

教育長 令和3年度に部活動検討委員会を設置した。さらに今年度の後半に開催し広い視野で議論する。

まちづくりの方向性は

問 **人口減少のなか、行政と地域が目標と役割を共有し、まちづくりを進める考えは。**

町長 地域資源をつなぎ直し、行政と住民が対話して同じ方向を向くことが重要である。人口規模に見合う、無理なく続けられる仕組みを検討する。

ここが聞きたい

一般質問



山崎（やまざき）　眞宏（まさひろ）
議員

問 丹波マーケスを集う施設に
答 役場内チームで検討する

問 丹波マーケスへの図書館移転の検討状況は。

副町長 昨年度実施の委託調査業務の結果をふまえ、企画経営戦略室を中心に、必要な機能や規模、メリット・デメリットなどの精査や財源などの調査を行った。

問 単に本を借りる場所としてだけでなく、集い、学び、交流する場としての役割をもたせることが重要では。

副町長 集う拠点としての役割が求められていると認識しており、引き続き、事業の方向性を調査・検討していきたい。

問 丹波マーケスの空きスペースを活用し、子どもの遊び場や親子の交流スペース、学習の場などを先行整備する考えは。

町長 提案の施設整備などは、図書館移転にかかわらず、子育て支援施策の充実と定住促進に大きく貢献する。総合的な観点から検討を進める。



道の駅丹波マーケス

行政視察対応の有料化を

問 行政視察対応の年間件数と職員の対応時間は。

課長 昨年度は24件受け入れ、対応時間は平均4時間だった。

問 視察対応に伴う経費の認識と負担への見解は。

町長 資料代などで平均1200円かかっている。積極的に対応を、と考える一方、多大な労力を要していることも事実である。

問 資料代、受入手数料などの受益者負担を導入し、自主財源の確保を。

部長 財源確保の観点から、他市町村の事例を参考に、適切な料金、徴収方法などの研究を進める。

町外参加者からの参加費徴収を

問 町主催の講演会やセミナーなどの開催経費と町外からの参加者数は。

課長 昨年度、36件開催し、経費は平均4万7千円、町外参加者は158人。

問 講演会など、町民は無料とし、受益者負担として、町外からの参加者からは参加費の徴収を。

部長 継続的な事業実施のため検討する必要があると考えている。視察対応と同様に研究を進める。

リニューアル後の道の駅の効果検証を

問 道の駅「瑞穂の里・さらびき」の持続可能な施設運営のため、指定管理者に対し、収益目標や経営改善指標を設定し、町として効果の検証、指導を。

室長 今後、定例ミーティングなどで把握、共有、検証し、改善を促していく。

閉会中の委員会報告

教育福祉常任委員会

10月1日、岐阜県白川町、2日、同県山県（やまがた）市へ管外視察研修を行った。

今回の視察目的は、「こども発達支援システム」を構築している白川町の具体的な運用状況について調査し、本町における切れ目のない子ども・子育て支援施策の充実に向け参考とすることを目的とした。また、山県市では「山県学園構想」を研修し、本町における今後の学校教育のあり方を検討する上で参考とすることを目的とした。

●こども発達支援システム

乳幼児から保育園、小学校、中学校までの成長段階を一連の支援としてとらえ、保健、医療、福祉、保育教育などの関係機関が連携し支援を行っている。

◆早期発見・早期支援

乳幼児健診、子育て相談、保育現場などにおける日常的な気づきを支援につなげる仕組みが整えられている。

◆こども発達支援教室による支援

こども発達支援教室を設置し、地域の中で発達支援を行っている。

◆関係機関との連携

保育園、学校、医療機関、発達支援機関などとの連携を図る。

◆就学時などにおける支援の引き継ぎ

子どもの成長過程における情報や支援内容を関係者間でつなぐことにより、環境が変わった後も継続した支援が行える体制を整えている。

まとめ

関係機関が連携し、早期の気づきから発達支援、就学後の支援まで継続して行うという点に特徴がある。

既存の各種施策を個別にとらえるのではなく、子どもの成長を軸として相互につなぎ、支援を必要とする子どもと、その家族が適切な時期に必要な支援を受けられる体制の構築を進めることが重要である。



白川町の視察風景

●山県学園構想

学校統合ではなく学校間連携という考え方で、市内9小学校、3中学校を一つの学園ととらえ、それぞれの学校を地域における教育拠点として維持しつつ、学校の枠を超えた学習機会を設けている。

◆合同授業による学習集団の確保

複数の学校による合同授業や交流授業を実施し、さらにオンラインを活用した協働学習と組み合わせることで、学校間の距離課題にも対応している。

◆小中一貫型教育による切れ目のない学び

小中学校間の連携を進め、児童生徒の成長段階に応じた継続的な指導や支援につなげるとともに、中学校進学時の環境変化を緩和する効果も期待される。

◆学校を超えた児童生徒の交流

異なる学校の生徒が混合したグループで学習する取り組みが行われ、学校規模の大小にかかわらず、多様な考え方に触れる機会を確保するという点で意義がある。

◆地域との連携

学校を地域の教育拠点として維持することにより、学校と地域とのつながりを維持することも構想の重要な要素となっている。

◆教職員同士の学び合い

一つの教室に複数の教員が入り指導に当たることにより、学校同士のつながりが子どもの学びだけでなく、教職員の指導力を高めている。

まとめ

合同授業、交流学習、オンライン協働学習、小中連携、地域との連携などを組み合わせることで、小規模校のメリットを生かしながら、児童生徒が多様な人とかかわり、一定規模の集団の中で学ぶ機会を確保している。本町においても学校を地域に残しながら、どのように教育の質を確保するかが重要である。児童生徒、保護者、教職員、地域住民の意見をふまえながら、本町に適した学校間連携のあり方を検討する必要がある。



山県市の視察風景

議会運営委員会

京丹波町議会では、議会運営委員会により次のとおり行政視察を受け入れ、活発に意見交換を行いました。

●鳥取県三朝町議会　議会運営委員会

日時　6月30日（火）
午後2時～4時

視察事項　議会改革・議会活性化につながる議会運営とは


鳥取県三朝町

コロナ禍において本町議会による議員定数削減を行っていることについて、質問があった。定数のあり方を議員間討論により論点を明らかにし、その様子をＣＡＴＶで放映して、町民の理解を得る取り組みとしたことなどを報告した。

●福井県高浜町議会　議会運営委員会

日時　7月10日（金）
午後2時～4時

視察事項　議会基本条例について


福井県高浜町

全国の市町議会で、議会基本条例を制定する動きがあり、本町議会も定めているところであるが、理念条例である本条例の運用について意見交換を行った。

議会広報広聴特別委員会

京都府町村議会広報編集正副委員長研修会が8月7日、京都府自治会館で行われた。前田安正講師により「住民読者の視点に立った広報を目指して」をテーマに

▼視覚的要素の重要性
▼文章・見出しの工夫
▼個別クリニック

について学んだ。

議会活動を住民に分かりやすく伝える「広報」と、住民の声を議会活動につなげる「広聴」の充実を図るため、議会広報紙の編集・発信方法、住民との意見交換の進め方などについて研修した。後半には参加した各町村の議会だよりの実際の紙面を見ながら、講師による具体的な改善アドバイス（クリニック）も実施された。

その他の研修・活動

◎京都府町村議会議長会　新任議員研修会

7月9日、新任議員を対象に京都府自治会館で行われた。

地方交付税制度、議会の位置づけなどの明確化、地方議会の運営の実態などについて研修を受けた。

◎京都府町村議会議員研修会

7月23日、全議員を対象に京都テルサで行われた。

〔第1部〕武庫川女子大学経営学部経営学科教授の金﨑健太郎氏による「地方財政の課題と議会に求められる役割」について

〔第2部〕地方議員研修会総括コンサルタントの川本達志氏による「役所を動かす質問の作り方」について研修を受けた。

◎議会ＤＸ研修

7月28日、全議員を対象に役場委員会室にて総務省地域情報化アドバイザーの井上あい子氏を講師に招き

◆議会ＤＸとは
◆全国の議会ＤＸ事例
◆オンラインの実践
◆生成ＡＩと議会
◆求められる情報セキュリティ

について研修を受けた。

◎京都府市町村振興協会　令和8年度市町村1期目議員研修会

8月27日、新任議員を対象にＡＮＡクラウンプラザホテル京都で行われた。明治大学政治経済学部講師の廣瀬和彦氏による議会におけるハラスメント、政治倫理とネットリテラシーについて研修を受けた。

◎クリーン作戦

7月8日、地域美化と暮らしやすいまちづくりを進めるため、町内3カ所（丹波、和知、瑞穂）に分かれ、午前9時から議員による清掃美化作業を行った。


クリーン作戦の様子

第63回 追跡調査

議会での議論がその後どうなっているのか、
町民のみなさんの疑問に答える企画です。

あれから どないなっとるんや～？



議会だより第８７号（令和７年２月発行）掲載の質問から

問

のびのび２組児童クラブを瑞穂小学校敷地内または近辺に移転し建設した方が、安全性や教育効果のメリットが大きいのでは。

教育長　現施設の建て替えは、工事期間も相当かかることから、瑞穂小学校の周辺を中心に検討することが望ましい。

こうなった！



令和８年６月１日に移転開所式が行われた。



瑞穂小学校敷地内に新築されたのびのび２組児童クラブ

議会だより第９２号（令和８年２月発行）掲載の質問から

問

冬場の下校時間帯、和知中学校下のバス停周辺が暗く、生徒の安全や防犯面に不安がある。街灯の設置など安全対策を検討する考えは。

課　長　教育委員会と連携し地元区と協議する。

こうなった！



令和８年９月に街灯が新設された。



和知中学校前バス停

議会だより京丹波　第95号
発行日
令和8年11月17日

発行／京都府京丹波町議会
〒622-0292 京都府船井郡京丹波町蒲生蒲生野487番地1
TEL.0771-82-3805　FAX.0771-82-2816
E-mail: gikai30@town.kyotamba.lg.jp
URL : https://www.town.kyotamba.kyoto.jp/gyoseijoho/chogikai/

人（ひと）

たくさんの「ありがとう」を創る場所
古民家カフェ「コモズキッチン京丹波」
蒲生区　森田（もりた）　作男（さくお）さん

京都縦貫自動車道丹波ICから車でわずか3分。豊かな自然が広がる京丹波蒲生地区に、昨年の8月、ひとつの古民家カフェが誕生しました。その名も「コモズキッチン京丹波」。今回は、この場所を立ち上げたオーナーの森田作男さんにお話を伺いました。



森田　作男さん

―まず、ここ京丹波でカフェを始められたきっかけを教えてください。

もともとこの蒲生地区は母の実家がある場所なんです。そして現在、コモズキッチンとして使っている古民家は、叔母の嫁ぎ先だった築170年の建物でした。私にとって、ここは慣れ親しんだ、いわば「第二の故郷」。そんな思い入れのある大好きな場所で、人々が集い、あたたかい交流が生まれるコミュニティスペースを造りたいと思ったのが、カフェをオープンしたきっかけです。

―丹波ICから車で3分という非常に便利な場所にありますね。どのような店を目指しているのでしょうか。

この立地だからこそできる「京丹波の魅力の発信基地」にしたいと考えています。

近隣他府県からドライブや観光でお越しになるお客様には、京丹波の美味しい食材やおすすめスポットなどの魅力をたっぷりご紹介したい。そして同時に、最新のトレンドを取り入れたメニューや食文化を、食を通じて地元の方々へとお伝えする―。

外から訪れる人と、地元に暮らす人が交差して、新しい発見や刺激が生まれるような「情報と流行のハブ」になればと思っています。

―素敵な構想ですね！それでは最後に、今後の目標や未来への想いを教えてください。

一番の目標は、京丹波の魅力を最大限にお伝えできるコミュニティをここで確立させることです。お店を通じて、いろんな「ありがとう」を生み出していきたいと考えています。

★美味しい情報を教えてもらって、ありがとう

★ゆっくりしていっぱいおしゃべり出来て、ありがとう

★コモズキッチンに足を運んでくれて、ありがとう

お越しいただいたお客様も、お迎えする私たちも、お互いに感謝の気持ちが行き交うような場所にしたい。とにかく「ありがとう」がいっぱいあふれる場所を目指して、これからも一歩ずつ育てていきたいですね。

～取材を終えて～

ゆかりある古民家を再生させ、地域と訪れる人を結ぶ森田さん。「ありがとう」と笑顔が広がるコモズキッチン京丹波は、今日も心あたたまる時間と美味しい食を届けています。ぜひ立ち寄ってみてはいかがでしょうか。

（記者　山﨑眞宏）

編集後記

秋も深まり、京丹波町の豊かな実りを感じる季節となりました。

今号でも、定例会における審議の内容をはじめ、議会の活動を町民の皆さまに分かりやすくお伝えすることを心がけました。

議会だよりが、町政や議会を身近に感じていただくきっかけとなり、町民の皆さまと議会をつなぐ架け橋となれば幸いです。

これからも身近で親しみやすい議会だよりを目指し、より分かりやすく充実した広報に努めてまいります。

畠中清司

表紙の写真

撮影日　令和8年10月3日
撮影者　樋口由実
場所　京丹波町立和知小学校
和知小学校・中学校スポーツフェスティバル